



市報おおいた新春企画

オリンピックの輝きと 大分の未来

大分市長 足立信也
大分市議会議員 二宮博

パリオリンピックメダリスト
フェンシング選手 敷根崇裕
江村美咲

司会 ラジオパーソナリティ 荒金由希子

市報おおいた新春号は、本市のまちづくりや未来への展望、魅力の再発見などをテーマとする対談を特集として掲載しています。

今回は、パリオリンピックフェンシング競技でメダルを獲得した敷根崇裕選手と江村美咲選手をゲストにお迎えし、オリンピックの経験や思いを伺うとともに、大分市長・大分市議会議員とスポーツや大分市の魅力について対談していただきました。

オリンピック出場・メダル獲得への道

—— まずはパリオリンピックの感想をお聞かせください。

敷根 私は東京オリンピックに続く二度目のオリンピックでした。東京はコロナ禍で無観客開催だったので、有観客の今回は全く別ものと感じました。会場のグラン・パレはフェンシングで盛り上がる土地でもあり、とても楽しかったです。

江村 私も東京では家族にも直接試合を観てもらえませんでした。今回は応援してくれる方々の前で戦う姿を届けることができ、開会式の旗手を務めたのも最高の経験でした。

市長 セーヌ川の開会式は見応えがありました。日本でも注目を集

めていた旗手が大分市出身の選手というのとても誇らしかったですね。

敷根 私も「同じ出身地です」と周囲に自慢しました(笑)。

—— お二人のもっとも印象的だった場面について教えてください。

敷根 フェンシングにはフルーレ、エペ、サーブルの3種目があり、私が戦うフルーレは「胴体」が有効面で、技は「突き」が有効な種目です。剣先で有効面を500g以上の力で突くとランプが点灯してポイントが入ります。印象に残っているのは準決勝の最終ポイント。剣を思いきりしならせて相手の背中を突く技で、フェンシングを知らない人でも「すごい」と感じてもらえるようなダイナミックな攻撃だったと思います。

江村 私はサーブルで、有効面は「上半身」、技は「突き」と「斬り」です。女子団体は3位決定戦の相手が開催国フランスで、私たちはア

ウェーでしたが、福島史帆美キャプテンからは「雰囲気負けず、気持ちを強く持つてメダルを取ろう」と力強い声掛けがあり、勝利を確信した瞬間は本当に嬉しかったです。

敷根 個人戦は15点勝負ですが、団体戦は1試合5点先取なので少しのミスで流れが変わることもあ

ります。「チームのため」というプレッシャーも大きいですね。

試合会場では漫画を読んだりラックスして過ごしていたので緊張しないタイプと思われがちですが、特に海外での試合前日などは緊張し過ぎて眠れないことも多々あります。

江村 会場で漫画を読むのは敷根さん以外ないので、緊張しない人だと思っていました(笑)。私自身は試合後に次の相手選手を動画で研究したり、ストレッチをしています。

市長 お二人の活躍は大分市民の皆さんに勇気を与えてくれました。ご両親もさぞ嬉しかったです。

江村 私の家族は全員、現地で応援してくれました。メダルを取った直後は、普段だったら絶対にならないけど抱き合って喜びました(笑)。

敷根 フェンシングはメダルラッシュで注目が高まっていて、私の所属クラブでも問い合わせが殺到しています。興味を持ってくれる人がどんどん増えてほしいですね。

議長 日本選手団の活躍、特にお二人を含め若手選手の活躍には本当に感動しました。

本市では、将来的に大分市を発展させる世代である若者の活躍を推進するため、議員提案による「大分市若者応援条例」が令和5年4月に施行されています。お二人のような次世代を担う若者にまちづくりへの積極的な参加も期待しています。

市長 今回、お二人には「大分市民栄誉賞」を贈らせていただきました。これを糧に、誇りを持って、今後も活躍されることを期待しています。

未来につなげる大分市の魅力

—— お二人が大分市で過ごした幼少期の思い出を教えてください。

敷根 私は11歳まで大分市大在で育ちました。大好きな友達も大分市にいて、フェンシングが強くな